

令和4年度

(2022年度)

事業報告書

自 令和 4年4月 1日

至 令和 5年3月31日

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

令和4年度 事業報告書

【令和4年度の環境認識】

当財団は、平成元年10月に設立し今年で34年目を迎え、公益認定移行後において11年が経過しました。当財団を設立した故土屋公三理事長が、昨年7月15日80歳で逝去され「お別れの会」が9月29日に札幌パークホテルにて執り行われました。

また、相変わらず長引く新型コロナウイルス感染症による行動制限や、医療従事者を始め高齢者や基礎疾患がある方を優先にワクチン接種が実施される等、社会経済に大きな影響を及ぼしました。

【基本方針】

当財団は、「すべての人が共に暮らし共に生きることがノーマル（正常）である」というノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者が安全で安心して暮らせる住生活環境の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会作りと社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

〈事業報告〉

I. 福祉住宅支援事業（公益目的事業1）

（1）助成金による福祉住宅建築支援

高齢者や障がい者が安心して、快適に暮らすことのできる福祉住宅及び福祉小規模集合住宅（以下「福祉住宅」という）の向上・普及を目指し、今年度まで34年間、同事業を継続して支援を行っております。

令和4年度は、建築助成事業として福祉住宅の新築及びリフォーム工事を行った建築主を対象とする「バリアフリー建築助成」の応募を行った結果、18件応募申請がありました。今までと違いコロナ禍の状況下で審査を進めるにあたり、有識者全員で集まることが出来なく、応募資料の写しを有識者全員に配布。審査員には審査委員長に北海道科学大学名誉教授菊地弘明先生を始めとし、大阪理事、牧野理事、道社協の事務局次長庄田様他、外部審査委員4名を含む計8名の有識者による審査を実施し、当財団の建築助成選考基準に則り厳正な審査を行った結果、助成金として予算総額300万円のところ、今回は18名287万円を（累計8,589万円）を支給しました。

(2) 情報誌「ふれあい」の刊行

情報誌「ふれあい」は、福祉住宅支援事業の一環として毎年継続しております。コロナ禍の状況下ではありましたが、取材中はマスクを外すこと無く応募者（施主様）と距離を取り十二分に注意を払い取材を行いました。情報誌「ふれあい」は、福祉住宅助成の対象となった建築主様へ取材を行い、日常生活や介護のためにリフォーム工事や建築をした住宅の実例等を数多く掲載し、年1回（3,000部）を発行しております。

情報誌「ふれあい」は賛助会員の皆様をはじめ、各地方自治体や社会福祉協議会、北海道難病連、教育研究機関や福祉団体等の関係先に広く無料配布しております。

また、講演会やセミナーでの参考資料として、一方では病院・リハビリテーションの理学療法士の方々への資料として提供させて頂き数多くの皆様のお役に立っております。また、他の活動としては、道民と北海道（道庁）が協働し北海道福祉のまちづくりサポーターとして参加する「北海道福祉の町づくりワーキンググループ」において福祉住宅・福祉小規模集合住宅バリアフリー建築助成の趣旨などを進める取組を行いました。

また、川本理事から引継ぎ継続している、毎月1回コミュニティ放送局のFMアップルの「バリアフリーストーク」に出演し、福祉住宅へのバリアフリー化などのリフォーム工事を検討している聴取者の皆さまにリスナープレゼントとして「ふれあい」や「ふれあい総集編」などを進呈し、幅広くアピールし活用しております。

II. ノーマライゼーション啓発事業（公益目的事業2）

(1) 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテストの実施

令和4年度で27回目となるコンテストは、高齢者や障がい者が家庭はもとより外出先においても、快適な環境で生活ができることを目的として、全道の小中学生児童を対象に応募を受け付けたところ、小学校の部では6校・個人3名で応募数246名、中学校の部では11校・個人1名249名の応募があり、個人での応募者も含め合計495名（累計14,895名）の参加となりました。昨年よりは、総応募件数が残念ながら若干少なく小学生からの応募は減少傾向にあります。今後は、クラス担当の先生や美術担当の先生に協力して頂く事が特に必要と感じております。

応募件数の減少の原因として、新型コロナの感染拡大防止のため全国各地の小中学校が休校やオンライン授業になるなどの授業時間の減少も少なからず影響があるのではないかと推測しております。

また、一段と少子化が進行し、小・中学校の廃校などにより児童生徒数がかなり少なくなっている状況です。全道の小・中学校には、新学期が始まる時期にポスター・

応募要項等が届く様に一齐に郵送し、学校長・新任・美術担当の先生方に対して協力をお願いしております。

令和4年度も審査委員長の大阪理事に丸1日間かけて第一審査を行って頂き、伊藤評議員の他、毎回審査をお願いしている牧野理事をはじめ外部審査委員4名を含む計6名の有識者で審査委員会を実施。小中学生による「安全・快適アイデア」コンテストの審査を選考審査基準に則り、厳正な審査の結果、52名の児童に各賞を決定いたしました。

尚、受賞された小・中学生児童の作品を札幌地下街「オーロラコーナー」で3日間の展示を行いました。その後、応募頂いた全小中学校に作品の返還と結果発表報告を行い、より多くの児童に興味をもって頂くと同時に、より多くの人に啓発事業を知って頂く事が出来ました。さらに、当財団のホームページや広報誌「ウィズライフ」、北海道新聞への記事として掲載をして頂きました。

(2) 広報誌「ウィズライフ (共に生きる)」の刊行

ノーマライゼーションを推進している方々の対談やインタビューの他、福祉機器や設備など役立つ情報を紹介する広報誌を年2回、7,000部(2回×3,500部)発行しました。当財団の冊子「ふれあい」と同様、賛助会員の皆様をはじめ、地方自治体や社会福祉協議会、北海道難病連、教育研究機関や福祉団体等の関係先に幅広く配布を行い、また、講演会での資料として参加者皆様に数多く役立つことができました。

令和4年度も前年度に引き続き「ウィズライフ (共に生きる) 第55号～第56号」で、見返しページに「我らサポーター (私たちの願い)」に当財団の評議員伊藤千織氏・故土屋理事長には2017年度を再掲載し、日常の生活や業務などの紹介をしております。「ウィズライフ (共に生きる) 第55号」のテーマは、求められる「介護の担い手」、少子高齢化が進む我が国で、介護の担い手不足が問題視されているところにコロナ禍が重なり、状況は一層深刻化しており更に介護職を志望する人の数はなかなか伸びず人材不足が顕著です。介護の担い手は、他人事ではなく自分事です。

「北海道介護福祉士会」会長野口恵子氏は、介護職を増やすため必要なことは「ネガティブな面を強調するのではなく介護職の魅力をもっとアピールすべき」と話されており、また、北海道高齢者保健福祉課が主催、北海道社会福祉協議会が受託する「介護に関心のある方への為の入門的研修」を道内各地において無料で開催しています。研修部長の野村宏之氏は「介護の基礎を学ぶ研修」として、是非、受講して頂きたいとの事。また、「介護・自立サポートアイテム」としてのページでは、レポーター西村裕広氏が簡単に自在に設置出来る「スマートトイレ」を紹介しております。新型コロナの感染下における福祉に携わる方の様々な情報を掲載、ノーマライゼーションの実践・支援をされている方などの福祉関連に役立つ情報等を紹介しております。

(3)福祉事情の視察研修

当財団が設立以来例年実施していた福祉視察研修は、世界的に蔓延する新型コロナの感染下では、昨年に引き続き中止せざるを得ないと判断し、残念ながら視察研修の中止を決定いたしました。次年度は世の中の新型コロナの感染状況を考慮し、あらためて検討いたします。

Ⅲ. 拠出金・協賛金・セミナー事業（福祉関連事業への取り組み）

諸団体と共に社会福祉に取り組む一環として、例年同様、令和4年度も「日本赤十字社」への寄付をはじめ、「国境なき医師団」、「北海道難病連」への募金、「北海道盲導犬協会」への寄付などを継続すると共に、各広告支援等を行いました。また、例年道内各地で開催されている北海道新聞社主催の「マイホーム教室」では、川本理事に福祉住宅や住環境のあり方などについての毎回講演を頂いているのですが、昨年同様にコロナ禍の影響で各イベントやセミナーも中止となりました。

Ⅳ. その他

福祉住宅支援事業・ノーマライゼーション啓発事業を推進するため、札幌市の公共地下街での施設でチラシを配置・配布。地下鉄駅15か所にある「ふれあいインフォメーション」各所にポスターの掲示。一般紙、地方紙、業界紙による紹介記事の掲載に努めると共に、コミュニティラジオ「FMアップル」に毎月一度出演し、「ノーマライゼーション住宅財団の事業内容や冊子「ふれあい」の中からバリアフリーの実例を参考にして、パーソナリティと「バリアフリートーク」を継続しております。

Ⅴ. 賛助会員について

【令和4年度 賛助会員状況】

*令和5年3月末日現在 [個人会員 115名・法人会員 48社 計163名]

《 理事会 》

* 第1回 理事会

1. 日 時 令和4年5月23日（月曜日）午後1時から
2. 場 所 ホテル札幌ガーデンパレス 2階 丹頂
札幌市中央区北1条西6丁目
3. 決議事項 第1号議案「令和3年度事業報告」の承認について
第2号議案「令和3年度決算報告及び監査報告」の承認について
第3号議案 評議員の招集の確認について
4. 提案事項 1. 「評議員2名の辞任に伴い新たな2名の評議員の選任」の件
2. 「評議員1名の増員推薦」の提案の件
5. 報告事項 1. 代表理事の職務の執行の状況の報告
2. 3月11日に開催した理事会決議事項の追認の報告

以上をもって議案の審議等を終了したので、議長は14時00分閉会を宣した。

* 臨時理事会の書面決議「臨時評議員会の招集の決定に係る提案書」

理事会の決議があったものとするみなされた事項の内容

- (1) 当法人の臨時評議員会招集の決定の件及び当該評議員会を書面決議にて行う件
- (2) 議案を以下のとおり当法人の定款一部変更とする件

「当法人の定款第23条第2項及び同条第3項の変更案」

当法人の代表理事の員数を現行の2名体制から1名体制へ変更するために、
定款第23条第2項及び同条第3項を変更案のとおりに変更すること。

理事会の決議があったものとするみなされた事項の提案者

理事長 土屋 昌三

理事会の決議があったものとするみなした日

令和4年9月9日

* 臨時理事会の書面決議 【新型コロナウイルス感染症拡大防止につき】

理事会の決議があったものとするみなされた事項の内容

議案内容

- (1) 提案事項

* 令和4年度 評議員会の招集について

(2) 決議事項

第1号議案 令和4年度 補正収支予算について

第2号議案 令和5年度 事業計画及び収支予算について

(3) 報告事項

理事長の職務の執行の状況の報告

理事会の決議があったものとみなされた事項の提案者

理事長 土屋 昌三

理事会の決議があったものとみなされた日

令和5年2月28日

*** 第2回 定時理事会**

1. 日 時 令和5年3月20日（月曜日）午前11時から

2. 場 所 ホテル札幌ガーデンパレス 4階 平安

札幌市中央区北1条西6丁目

3. 報告事項

①理事長の職務の執行の状況報告

②第27回小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト結果報告

③令和4年度「福祉住宅建築助成支援事業」結果報告

4. 決議事項 第1号議案「令和4年度収支補正予算」の件

第2号議案「令和5年度事業計画及び収支予算」の件

第3号議案 「評議員会の招集」の件

以上をもって議事を終了したので、議長は午後0時15分に閉会を宣した。

《 評議員会 》

*** 第1回 定時評議員会**

1. 日 時 令和4年6月2日（火曜日）午後1:00～

2. 場 所 ホテルガーデンパレス 2階 孔雀

札幌市中央区北1条西6丁目

3. 決議事項

第1号議案 「令和3年度事業報告及び決算報告及び監査報告」について

- 第2号議案「評議員2名の辞任に伴う新たに2名の選任」について
第3号議案「評議員1名の増員に伴う選任」について
第4号議案 3月23日（水）に開催した評議員会決議事項の追認について

*** 臨時評議員会の書面決議「臨時評議員会の招集の決定に係る提案書」**

評議員会の決議があったものとするみなされた事項の内容

- (1) 当法人の当該評議員会を書面決議にて行う件
- (2) 議案を以下のとおり当法人の定款一部変更とする件
「当法人の定款第23条第2項及び同条第3項の変更案」
当法人の代表理事の員数を現行の2名体制から1名体制へ変更するために、
定款第23条第2項及び同条第3項を変更案のとおりに変更すること。

評議員会の決議があったものとするみなされた事項の提案者

理事長 土屋 昌三

評議員会の決議があったものとするみなした日

令和4年9月20日

*** 第2回 定時評議員会**

1. 日時 令和5年3月20日（月曜日）午御1時から
2. 場所 ホテル札幌ガーデンパレス 4階 平安
札幌市中央区北1条西6丁目
3. 報告事項
 - ①理事長の職務の執行の状況報告
 - ②第27回小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト結果報告
 - ③令和4年度「福祉住宅建築助成支援事業」結果報告
4. 決議事項
 - 第1号議案 「議長及び議事録署名人の選出」の件
 - 第2号議案 「令和5年度事業計画及び収支予算」の件
 - 第3号議案 「令和4年度収支補正予算」の件

以上をもって議事を終了したので、議長は午後2時00分に閉会を宣した。

以上